



令和 6 年度（令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）

滋賀大学附属図書館の特色ある活動報告

1. オープンアクセスの推進

学術論文の OA 化に必要となる APC の負担軽減のため、令和 6 年度から Elsevier 社の転換契約（Read & Publish 契約）を導入し、学内教職員が OA 出版枠を使用した。また、文部科学省公募の「オープンアクセス加速化事業」に採択され、教員情報管理システムの機関リポジトリ連携機能追加による業務強化、研究推進課における APC 支援事業の実施、学外有識者による連続講演会（全 5 回）の実施や「滋賀大学オープンアクセス方針実施要領」の制定等、全学的な体制で OA 化推進に取り組んでいる。

2. 各企画展示の実施

本館・教育学部分館にて、「Python、集めました。」「先生がみなさんにおすすめする本」、「古本募金で買いました！」等、時宜に即したテーマで図書館員のアイデアと多種多様な蔵書を活かした企画展示を行った。また、学長裁量経費を活用し、教育学部分館で所蔵する古典籍・漢籍（彦根藩弘道館旧蔵書を含む）の一部資料のデジタル化を行い、両館にてパネル展「近江輿地志略」を行った。

3. 教科書展の開催（大津キャンパス）

教育学部分館（大津キャンパス）では、本学教育学部教員監修のもと、第 38 回教科書展「なくなる手仕事—技術教育の歴史—」を実施した。



教科書展

4. 所蔵貴重書の公開展示（彦根キャンパス）

本館（彦根キャンパス）では、17～18 世紀イギリスの医者マンデヴィルの詩作に関する本学所蔵の貴重書展示「マンデヴィル『蜂の寓話』」を実施した。



貴重書展示コーナー

5. リユース本の活用

本館・教育学部分館にて、随時「持ち帰りコーナー」を設置している。また、本館では「図書リユース市」を 10 月 28 日(月)～10 月 30 日(水)に開催した。教職員から提供された不要図書や図書館の除籍図書のリユースを推進し、学生の図書館や図書への興味を高める契機や勉学交流の場として、有意義な活動となっている。

6. 学生を対象とした文献取り寄せサービスの費用支援を実施

本館・教育学部分館ともに、学生が文献取り寄せサービスを利用する際の費用を図書館予算で負担し、レポートや論文等に必要な資料の入手を支援している。

7. 学修支援

学生を主な対象として情報リテラシー教育講習会等を実施した。

- ・1 年次春学期必修講義「大学入門セミナー」「プレゼンテーション論」における講義資料作成、ガイダンス実施（本館・教育学部分館）
- ・文献検索方法を扱う「ランチタイムガイダンス」（全 3 回）の実施及びガイダンス動画の学内公開（本館）
- ・新入学の大学院生・専攻科学生を対象とした講習会を情報基盤センターと共催（教育学部分館）
- ・ゼミ単位でのオーダーメイド講習会の実施（本館・教育学部分館）
- ・学生個人を対象とした「文献集め相談会」の実施（教育学部分館）

8. 職員の能力習得・向上への取組

- ・登壇：図書館システム・ネットワーク ユーザーグループイベント～デジタルアーカイブ、NCR2018 対応、図書館システムガイドライン、ILL～（第 26 回図書館総合展 NII フォーラム）
- ・研修等参加：第 26 回図書館総合展 NII フォーラム、JUSTICE 電子資料契約実務研究会、学術情報流通に関する連続セミナー 等

9. 館内施設の整備（彦根キャンパス）

本館 2 階のグループ学習室を改装し、新たに「イノベーションベース」と「ミーティングルーム」を設置した。

「イノベーションベース」には 6 人掛けのソファとコンセントを備えたセミオープンブースを 3 つ設置し、少人数でのミーティングや勉強会、オンライン会議などを周囲の目を気にせず行うことができる。一方、「ミーティングルーム」には、10 人以上が座れるソファ、パソコン、大型モニター、ホワイトボードを設置し、ゼミやクラブ活動のミーティングに最適な環境を提供している。

さらに、従来はグループ利用のみ可能だった館内施設の予約について、オンライン会議などの場合には個人でも利用できるようにした。また、利用が少なかった研究者用閲覧室を学生にも開放し、学生がより利用しやすい環境を整備した。これに伴い、図書館施設利用規則を見直し、新たな運用を開始している。



「イノベーションベース」

「ミーティングルーム」

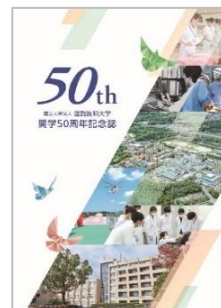
令和6年度 滋賀医科大学附属図書館の特色ある活動報告

◆オープンアクセスの推進（EJ 転換契約の拡充）

前年度より継続して Oxford University Press（OUP）社と、新たに3社（Wiley 社・Springer Nature 社・Company of Biologists 社）との間で、転換契約（電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料を合わせた包括契約）を締結した。OUP 社のジャーナルへは、この契約により本学から4報の論文がオープンアクセスで出版された。

◆開学50周年記念誌の編集・刊行

開学50周年記念事業の一環として、記念誌を編集・刊行した。
冊子のボリュームを抑え、Web サイトと連動したハイブリッド版
記念誌を作成した。（Web 版：<https://50th.es.shiga-med.ac.jp/>）



記念誌冊子

◆図書展示

多彩なテーマで、教員や学生、学内外イベントとの連携企画も多数実施した。

- ・新入生歓迎&新生活応援図書展示（4/1～5/10）
- ・滋賀県大学図書館のおすすめ本 vol.3（5/20～6/21）
- ・レポート・論文の書き方（6/6～7/12）
- ・就活・面接対策本（6/21～8/30）
- ・洋書にチャレンジ！（8/2～9/20）
- ・海！（8/8～9/13）
- ・リレー・フォー・ライフ関連図書（9/24～10/18）
- ・開学50周年記念 卒業生著作（10/23～11/22）
- ・研究倫理教育研修会連動企画：
中山健夫先生関連図書（11/11～12/13）
- ・男女共同参画推進フェア：
NWECC 借受図書展示（11/14～1/31）
- ・学生ソロ選書2024（12/24～1/31）
- ・谷川俊太郎（12/27～1/31）
- ・“キン活”してみませんか？（2/10～3/14）



↑ 学生作成

◆研究倫理教育研修会の開催（研究推進課と共催）

- ・（7/23）「責任ある論文出版と粗悪ジャーナル問題」
講師：井出和希氏（大阪大学感染症総合教育研究
拠点 科学情報・公共政策部門/社会技術共創研究
センター特任准教授）
- ・（11/12）「学術情報の出版倫理＜Publication Ethics＞と報告ガイドライン」
講師：中山健夫氏（京都大学大学院医学研究科・社会健康医学系専攻 教授）



◆情報リテラシー教育の実施

対面、オンデマンド、リアルタイム配信等、さまざまな形式により講義や研修会を実施した。

新入生オリエンテーションでは、健康診断の空き時間を活用し、各自で館内をめぐりシールラリーを行った。

- ・(4/2,3)新入生オリエンテーション (医・看 1、医編入 2 : 170 名)
- ・(4/11)看護師特定行為研修生オリエンテーション (25 名)
- ・(4/30,5/7)情報科学 (医・看 1 : 154 名)
- ・(5/9,6/17,7/12)看護部研修会文献検索講習会 (75 名)
- ・(5/20)医学総合特論 (博士 : 23 名)
- ・(5/21)基礎医学研究入門 I・II (医 1,2 : 23 名)
- ・(6/7)アカデミックスキル (医 1 : 95 名)
- ・(6/20,27)看護学研究方法論 I (博士前期 : 16 名)
- ・(7/5)アカデミックスキル (看 1 : 56 名)
- ・(9/9)看護師特定行為研修生オリエンテーション (11 名)
- ・(10/17,18)UpToDate 登録会・オンライン説明会 (19 名)
- ・(11/15)看護学研究方法論IV (博士前期 : 10 名)
- ・(11/29) CINAHL 講習会 (12 名)
- ・(12/9) 看護学研究方法論 (看 2 : 56 名)
- ・(1/16) Scopus 講習会 (19 名)
- ・(1/21) 臨床実習オリエンテーション (医 4 : 99 名)
- ・(1/23,24,28,2/3) 文献検索講習会 (看 3 : 57 名)
- ・(2/17) Journal Citation Reports 講習会 (16 名)
- ・(通年)脳神経内科臨床実習文献検索講習会 (医 5)



◆学生ソロ選書

「ひとりで・気軽に・ふらっと」書店で選んでもらうスタイルでの学生選書を実施し、参加学生が選んだ図書 71 冊は、後日学生によるおすすめコメントを添えて展示した。

選書期間 : 2024 年 8 月 8 日 (木) ~ 8 月 18 日 (日)

参加学生 : 12 名



◆オープンアクセスの推進 (研究データポリシーの策定)

研究推進課主導で「滋賀医科大学研究データ管理・公開ポリシー」を役員会に附議し、策定した。次年度以降、研究データポリシーの解説 (補足) 作成に向けて 検討ワーキングを発足する予定。

◆国立大学図書館協会近畿地区協会事業

医学図書館 2024 : Vol.71 No.2 への投稿・掲載

『滋賀医科大学附属図書館による「大学におけるデジタル技術の活用に関する事例報告会」開催への取り組み』

2024(令和 6)年度 特色ある活動報告

2025 年 4 月
京都大学図書館機構

1. オープンアクセスの推進と研究活動支援

(1) 国の OA 基本方針と研究支援体制の周知広報

2024 年 2 月に策定された内閣府の「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」(国の OA 基本方針)と京都大学の研究支援体制の全学周知を進めている。部局長会議で図書館担当理事から報告を行ったほか、総合研究推進本部(KURA)主催の科研費説明会や部局主催のセミナー等あらゆる機会を捉え、全学研究者への周知広報を展開している。国の OA 基本方針のポイントおよび KURENAI/公開支援システムによる研究支援体制を解説したページを作成・公開し、またオープンアクセスを啓発する動画を作成する等、様々な媒体を用いた周知広報にも取り組んでいる。

(2) オープンアクセス加速化事業の推進

文部科学省の補助金公募事業「オープンアクセス加速化事業」に図書館機構、情報環境機構、KURA が連携した計画で応募し、7 月に採択された。研究者が研究成果のセルフアーカイブを手間なくスムーズに実践できるように、KURENAI 公開支援システムの機能改修を進めている。UI/UX の全面改善、研究データの登録・公開機能、査読者のみと共有する機能等を開発した。また、研究データ公開用ストレージ整備も進めており、今後、非公開・共有データ用ストレージとともに連携運用することにより、オープン&クローズ戦略に対応した研究データ管理・公開を進めていくことが可能となる。さらに、部局図書館・室と連携し、既存業務を効率化・高度化してオープンサイエンス支援人材を創出するための取り組みを推進している。



データ公開用ストレージ整備も進めており、今後、非公開・共有データ用ストレージとともに連携運用することにより、オープン&クローズ戦略に対応した研究データ管理・公開を進めていくことが可能となる。さらに、部局図書館・室と連携し、既存業務を効率化・高度化してオープンサイエンス支援人材を創出するための取り組みを推進している。

2025 年 1 月には国際シンポジウム「研究データの持続可能なライフサイクル構築へ向けて」を開催したほか、今後の図書館機構の組織・機能再編の参考とするため、主に Office of/for Scholarly Communication (OSC)を有する海外の大学を視察した。

(3) データ運用支援基盤センターとの協働

2024 年 1 月にデータ運用支援基盤センターが設立された。本センターは、情報環境機構、図書館機構、研究推進部・KURA 等が協働し、全学的な研究サイクル支援体制を構築しようとするものである。RDM(Research Data Management)コンサルタントグループを組織し、統一相談窓口を開設し、今後の協働連携活動を定期的に議論している。また、研究データ管

理・公開の現状と課題について把握するため、研究支援を活動の柱とする桂図書館(工学研究科)職員とともに研究者インタビューを行った。

(4) 電子ジャーナル転換契約および APC 支援等の周知広報

2024 年 4 月から Elsevier 社との契約において、電子ジャーナル購読料と APC を包括した転換契約を導入した。主要出版社との転換契約が一段落したことから、改めて全学に周知を行うと共に、学内図書館・室の職員向けに業務説明会を2回実施し、転換契約や APC 管理への理解を深めた。

OA 加速化事業の一環として、京都大学オープンアクセス方針に基づくオープンアクセス推進を目的とし、国の OA 基本方針の周知広報も兼ねて APC 支援事業(8/1-12/27)を実施した。また、医学部附属病院が主催するセミナーで医学図書館・附属図書館職員が講師となり「論文のオープンアクセス化 図書館が支援します」(10/22)を開催し、転換契約における APC 割引制度、KURENAI によるセルフアーカイブ等を研究者に周知広報した。

2. 学修・教育支援の推進

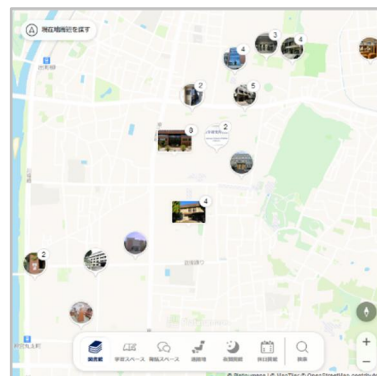
(1) 電子ブック展示の実施

電子ブックの利用増加をねらいとして、附属図書館とエリア連携図書館である桂図書館、吉田南総合図書館が協力して、電子ブック展示を行った。電子ブックと冊子の所蔵がある図書は電子ブックの QR コードを掲載した栞型 POP を書架に差し込み、現物から電子ブックへの誘導を行った。電子ブック所蔵のみの図書は同分野の書架に POP を置き、電子ブックの存在を周知した。POP 作成は、3 館の図書館・室職員が分担して行って、作業を効率化した。また、展示期間や広報物を統一することで、図書館機構として一体的な広報を展開し、利用者への電子ブックの周知を効果的に行った。



(2) 図書館・室一覧「シン・マップ」の公開

学内に 40 近くある図書館・室の利用案内や開館日程などの情報は、図書館機構ウェブサイトに集約して掲載しているが、所在情報は PDF 形式の地図のみで、スマートフォン端末からは見づらく、窓口でも印刷した地図で案内する手段しかなかった。そこで、デジタルマップを導入することで、あらたに「シン・マップ」を作成し、12 月に公開した。「シン・マップ」は端末の種類を問わずアクセスでき、図書館・室までのルート案内機能も備えている。利



利用者の反応も参考にしながら、今後は図書館・室の情報のみならず、学内の様々な学習スペースに関する情報を「シン・マップ」に集約することで、利便性を向上させる予定である。

<https://platinumaps.jp/d/kulib>

(3) マイクロ資料利用環境の向上

複数の学内図書館・室ではデジタルマイクロリーダーを備えているが、保有状況や利用条件を広く周知しておらず、研究室所蔵マイクロ資料等をどうすれば見られるのかわからないといった声が利用者から寄せられることがあった。そこで、学内いくつかの図書館・室の利用ルールを図書館機構ウェブサイトで周知することとした。合わせて図書館機構のオンラインサービスの施設予約機能を使って、マイクロリーダーの利用予約を可能にした。これにより、マイクロリーダーの所在を可視化すると共に、利用者の利便性向上と機器の有効活用を実現した。

3. 豊富な学術資源の活用と社会貢献

(1) 貴重資料デジタルアーカイブの推進

附属図書館所蔵「蔵経書院文庫」「大惣本」などの電子化を継続的に実施した。同時に昨年度以前に作成した貴重資料画像の公開を進め、「菊亭文庫」7点、「大惣本」289点、文学研究科が所蔵する抄物コレクション「壽岳文庫」64点、「室町物語(御伽草子)」3点、重要文化財『大日本史編纂記録』第56冊から第61冊までの202画像、吉田南総合図書館所蔵で西田幾多郎が長男の死を悼んで寄贈した資料の西田自身による書き込み部分、といった資料の電子画像を京都大学貴重資料デジタルアーカイブに公開した。また、貴重資料デジタルアーカイブのシステムリプレイスを行い、デフォルトビューワーをMirador3に変更するとともに、画像用ストレージサーバを拡張し、画像データの増加に対応できる環境を整えた。

広報活動としては、京都大学アカデミックデイ2024に初めて参加し(9/21、11/2)、パネル展示

「挿絵で楽しむ源氏物語」、床面装飾「古地図で見る京都」、特設スペースでの一般来客者への説明、オリジナルグッズ(しおり・シール)やアマビエぬりえの配布等を行い、多くの市民に貴重資料デジタルアーカイブを知ってもらう機会となった。



(2) オープンキャンパスでの学内図書館・室共同デジタルスタンプラリー開催

2019 年度以来の全面来場型開催となった京都大学オープンキャンパスに図書館機構として協力し、デジタルスタンプラリーを開催した(8/8、9)。学内 13 図書館・室の計 16 箇所にポイントを設置し、各ポイントを廻って掲示された QR コードをスマートフォンで読み込むことで獲得できるスタンプ数に応じて、参加者に図書館グッズを進呈した。附属図書館には 2 日間で 7,000 人以上もの来館があり、スタンプラリーの参加者も 1,627 人に上った。準備作業から参加各図書館・室が共同して行っており、当日の参加者へはもとより、学内に対しても図書館機構としての一体性をアピールする効果もあった。



(3) 読書バリアフリー体験セットの展示

文字・活字文化推進機構が貸出を行っている「読書バリアフリー体験セット」を附属図書館 1 階閲覧室で展示した(10/1-11/4)。読書バリアフリーセットには、障がいの有無に関わらずすべての人が図書の内容にアクセスできるように様々な工夫がされた図書やグッズで構成されており、学生が足を止めて興味深そうに手に取っている様子が見られた。



(4) ホームカミングデイ会場での図書展示

11/2 に開催された京都大学ホームカミングデイに協力し、時計台記念館の会場において図書展示を行った。この展示企画は KURA が企画している研究者との交流イベントの一環で、学内研究者がテーマに基づいて推薦した図書を展示するものであり、当日は多くの市民や研究者が手に取ってページを開いている様子が見られた。合わせて、



貴重資料デジタルアーカイブオリジナルグッズの配布も行った。なお、例年このイベントで推薦された図書は蔵書検索システム KULINE のタグ付け機能を使って、イベント後も広く一覧できるようにしている。

4. 全学図書館機能の基盤整備

(1) 図書館システムの整備

利用者データ自動連携、自動貸出機・入退室管理システム・IC タグ対応機器の新規導入・更新、全学的な領収書発行システムの導入、KULINE による指定図書(企画展示)機能の

開始、目次・書影データ拡充、NACSIS-CAT NCR2018 適用対応などサービス・業務両面から全学図書館機能の基盤整備を行った。

(2) 保存のための資料デジタル化の可能性検討

図書館における資料保存のための電子化や媒体変換について理解を深め、実施の可能性を探るために図書館職員によるワーキンググループを設置し、著作権法上の規定や実際に許容される範囲を調査した。担当者間および著作権法の有識者との意見交換会を通して得た調査結果を、図書館協議会と学内図書館・室で共有した。

(3) 京阪神 3 大学図書館の連携・協力活動ウェブサイトの公開

新たな大学図書館機能の実現に向けて連携・協力を行う京阪神 3 大学図書館(京都、大阪、神戸)の活動や成果を報告するウェブサイトを公開した。成果物として、京阪神 3 大学ライブラリー・スキーマや各種の発表資料を掲載している。

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/mainlib/keihanshindl/index.html>

(4) 令和 6 年度京都大学図書館機構長賞の授与

研究者や大学院生、あるいは他部署の職員との協働により実施した調査や業務改善、サービスの向上のプロジェクトなど 5 件に対し、令和 6 年度京都大学図書館機構長賞を授与した。 <https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1398532>

京都工芸繊維大学附属図書館 令和6年度特色ある活動の報告

1. ML(ミュージアム・ライブラリー)連携

●ML(ミュージアム・ライブラリー)連携企画展示

平成 30 年度より ML 連携企画と題して、美術工芸資料館と附属図書館が連携し企画展示を実施している。



- ・美術工芸資料館展覧会
「大博覧会ー博覧会を楽しむ 20 のエピソード」関連図書展示
展示期間
令和 6 年 7 月 8 日～ 8 月 10 日



- ・美術工芸資料館展覧会
「レンズを通して観る浮世ー広重の名所の「いま」を撮る」関連図書展示
展示期間
令和 6 年 11 月 18 日～12 月 21 日

●シンポジウム「博覧会の楽しみ方」開催

令和 6 年 7 月 20 日 (土)、美術工芸資料館の展覧会「大博覧会ー博覧会を楽しむ 20 のエピソード」に関連し、ML 連携シンポジウム「博覧会の楽しみ方」を開催した。
シンポジウムには 91 名の参加があり大変好評を得た。

講師：佐野 真由子 (京都大学教授)
橋爪 節也 (大阪大学名誉教授)
並木 誠士 (京都工芸繊維大学特定教授 美術工芸資料館長)



シンポジウム会場風景



会場入口で講師関連書籍の展示を行った

●シンポジウム「レンズを通して観る浮世ー広重の名所の「いま」を撮る」

令和 6 年 11 月 23 日 (土)、美術工芸資料館の展覧会「レンズを通して観る浮世ー広重の名所の「いま」を撮る」に関連したシンポジウムを開催した。
シンポジウムには 47 名の参加があり大変好評を得た。

講師：ブエノ・アレックス (東京大学グローバル教育センター特任講師)
佐藤 守弘 (同志社大学教授)
並木 誠士 (京都工芸繊維大学特定教授 美術工芸資料館長)



2. 情報発信、イベントの開催

● 図書館総合展ポスターセッションへの参加

令和6年11月5日（火）～11月7日（木）の3日間、パシフィコ横浜で開催された第26回図書館総合展のポスターセッションに出展した。また、11月16日（土）～11月24日（日）の期間、オンラインでのポスターセッションも併せて出展を行い、附属図書館の特色あるコレクション、美術工芸資料館との連携企画などの特徴的な活動について発信した。



パシフィコ横浜でのポスターセッションの様子

● 寄贈に合わせた企画展示

本学発のベンチャー企業である株式会社魁半導体から、「京銀SDGs 私募債『未来にエール』～次世代を担うこどもたちへ～」による寄贈品として図書の寄贈を受けた。また、寄贈に合わせて企画展示を行った。



企画展示の様子

● 「ミニぷらっとお持ち帰りコーナー」の実施

中古図書無料頒布イベント「ミニぷらっとお持ち帰りコーナー」を図書館1階リフレッシュスペースの一角に常設している。不用となった図書を随時持ち帰ることができ、利用者から好評を得ている。

3. 学修支援・研究支援

● 図書館利用ガイダンス

応用生物学課程・機械工学課程・応用化学課程1年次の授業科目において、図書館職員による図書館利用ガイダンスを実施した。内容は主にOPAC及び各種データベースを使った情報検索の説明と実習を行った。

2024(令和 6)年度 大阪大学附属図書館 国大図協ビジョン 2025 に基づく特色ある活動 近況報告

基本理念

1) 『大阪大学附属図書館将来構想 2025-2030：オープン化の時代に即した、阪大の新しい知の循環へ貢献する図書館』の策定・公開

- ・ 2030 年を見据えた当館のビジョン
- ・ 係員級職員が素案を作成し、ボトムアップ型により策定



重点領域 1. 知の共有：＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有

目標 1-1：教育研究成果の発信、オープン化と保存

1) 機関リポジトリ「大阪大学学術情報庫 OUKA」への登録推進

特に学術雑誌論文の登録を強化

2024 年度 1043 件 ※前年度の 1.34 倍（2023 年度 778 件）

2) オープンアクセス加速化事業の採択・実施

「大阪大学研究推進本部オープンサイエンス推進室」として全学で対応

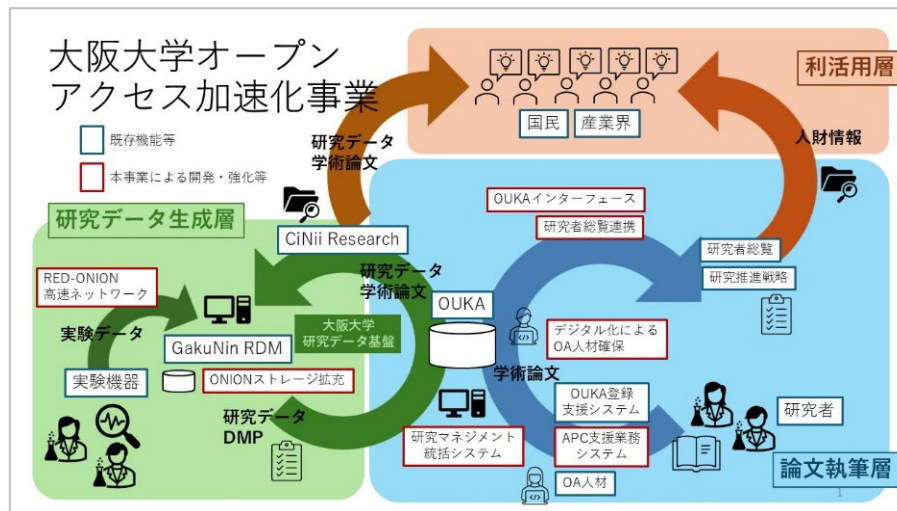
室長：理事・副学長（研究、国際(研究)、情報推進、図書館担当）・附属図書館長

室員：全学の研究・情報の関連部局の教員・URA・事務職員

① 主な事業内容

- ・ 「研究マネジメント総合支援システム」の構築
- ・ OUKA の機能強化、OUKA と研究者総覧等のデータベースとの連携
- ・ 研究データ基盤の拡充（ストレージ拡張、高速ネットワーク構築等）
- ・ 戦略的な APC 支援、APC 支援業務システムの導入

- ・電子情報資源管理システム ERMS の導入→転換契約の選定作業の軽減
- ・顔認証付き入退館機の設置等による図書館関連業務の負担軽減→OA 人材の確保



- ② 大阪大学・京都大学合同訪問調査会の開催（阪大：2024 年 9 月 10 日）
 オープンアクセス加速化事業採択機関のうち、本学への訪問調査を希望した 13 機関 32 名を受け入れ、2 時間半の説明会を開催
 （附属図書館のほか、研究推進部および総務企画部質保証推進室が対応）

3) 全国的な「AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」への参画

中核機関：NII

共同実施機関：理化学研究所、東京大学、名古屋大学、大阪大学

① RDM 基礎編教材の開発

- ・学内 LMS へ掲載（2023 年 10 月）
- ・オンデマンド受講した学内教員のアンケート結果を分析（2024 年 8 月～）
- ・九州大学データ駆動イノベーション推進本部とも連携開始（2024 年 8 月～）
- ・JPCOAR 教材作成チームにより教材を改修

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業
研究データ管理教材 基礎編



新任教員研修プログラム
オープンサイエンス時代における
研究データマネジメントの基礎について学ぶ
2023年10月～2024年3月 オンライン開催

オープンサイエンス推進室

本コンテンツは動画配信コンテンツを基に作成しています

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業
研究データ管理教材 実践編



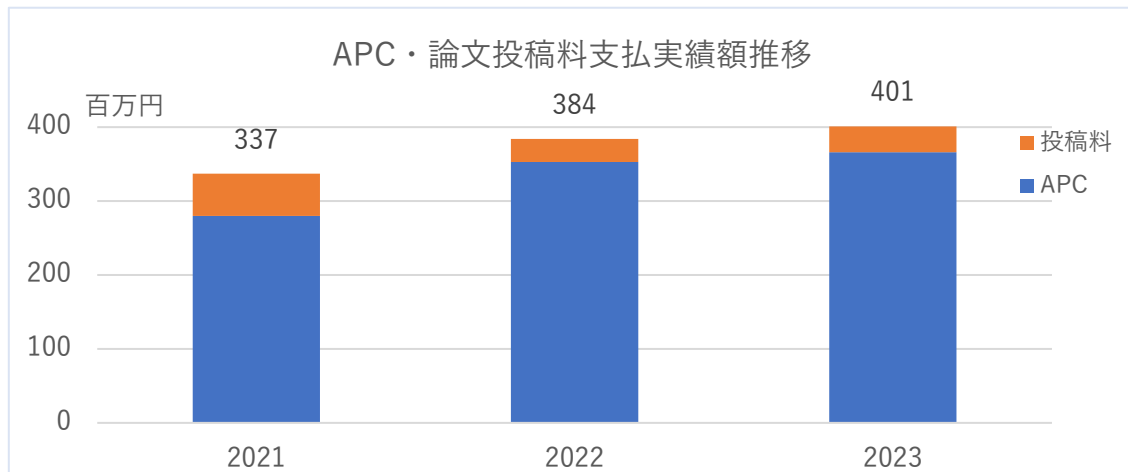
プロジェクト
フル・ヒューマニティーズ学習教材開発ー

人文学研究者必見!
テキストデータとTEIで描く新たな研究ビジョン

② RDM 実践編教材の開発

- ・「実験系研究データ管理の実践」、「OUKA で始める IIIF 画像の公開と利活用」を作成・OUKA で公開（2024 年 3 月～）
- ・「人文学研究者必見！ テキストデータと TEI で描く新たな研究ビジョン」、「エスノグラフィの研究データ管理入門：オープンサイエンス時代のなかで」の完成

4) APC・論文投稿料支払い実績額調査（財務会計システムデータによる集計）



目標 1-3：知識や情報の発見可能性の向上

1) 利用者ガイダンス、学習支援、研究支援

- ・新入生ガイダンス（2024 年 実施 12 回、参加 730 名）
- ・日本語、英語、中国語での図書館ツアー（実施 70 回、参加 326 名）
- ・図書館職員及びラーニング・サポーターによる講習会等（実施 123 回、参加 1677 名）
- ・Nature Masterclasses オンラインコース（研究推進部・経営企画オフィスと共催 2022 年 2 月 10 日～2025 年 2 月 9 日）

2) 被災地支援（2024 年 8 月 8 日発生の宮崎県日向灘地震への対応）

① ILL 医療文献複写無料提供

宮崎・鹿児島各県の大学等機関（病院図書室・個人院を含む）からの文献複写依頼を、無料で速達送付（2024 年 8 月 16 日～11 月 29 日）

② 図書館利用

被災地域の大学構成員（学生・教職員）への本学図書館（4 館）利用

※1 月 1 日の能登半島地震でも実施、これを定型化し今後の激甚災害でも同様に対応予定

重点領域 2. 知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供

目標 2-2：社会・地域に開かれた知の創出空間の提供

1) 市立図書館と大学図書館の機能を有する箕面市立船場図書館（外国学図書館）の運営

学内他部署及び箕面市等との連携による幅広い活動展開



子どものタイ文身体験
《外国語学部タイ語専攻》



学生による研究発表・交流会
《外国語学部ベトナム語専攻》



子どもの多文化体験・交流・
学び《箕面市国際交流協会》

重点領域3. 知の媒介：知交流を促す＜人材＞の構築

目標 3-1：多様な人材との協働

- 1) 研究科との共同研究：行動経済学の理論を応用した貸出資料延滞の改善
院生及び教員から研究の申し出を受け職員と共同実施(2023年11月～2024年10月)

目標 3-2:国立大学図書館職員の能力向上

- 1) 京大・阪大・神大3大学図書館の連携・協力活動(2023年6月 協定書締結)
当館からも係員級～管理職が参画
 - ① 京阪神デジタルライブラリー構想(SlackやZoom等で各館担当者が情報交換)
 - ② 京阪神ライブラリー・スキーマの作成(2024年2月)
 - ③ 3大学共通の図書館利用者アンケートの実施(2024年1～2月)・結果公開
- 2) 国大図協近畿地区協会助成事業「きみが大学図書館を変えてみないか」(通称:キダカミ)
当館からも係員級～管理職が参画
 - ① 大学図書館入職志願者、一般就活生に向けたPR戦略の立案・実施
 - ② 現職職員に向けた最新動向理解の増進やリスキングのための活動立案・実施
- 3) 湘南リトリート2024夏:若手ライブラリアンによる将来のOA等施策調査検討合宿
国立情報学研究所主催の標記合宿に、当館からも3名の係員級職員が参加
(うち1名は、講師として「京阪神ライブラリー・スキーマ」の事例報告を行った)
- 4) 国大図協近畿地区協会助成事業「新入生の迎え方 ―高大接続の現状から大学図書館の取り組みを再考する―」
当館職員(係長級)が企画し、当館が主担当となり研修会を開催
講師:溝上 慎一 教授(桐蔭横浜大学)
吉本 真代 特任講師(大阪大学)
山崎 勇気 司書教諭(清教学園図書館リブラリア)
原田 章 教授(追手門学院大学)

日時：2024 年 9 月 13 日(金) 13:00～16:20

形式：大阪大学総合図書館 6F 図書館ホール+オンライン(Webex)のハイブリッド開催

参加：91 名（うち会場参加 17 名）

内容：近年の高大接続に関する調査結果の共有、および高大接続事業の最新事例の共有を通じて、新入生向けの取り組みや学習支援業務など、大学図書館における今後の教学支援に関する企画立案に活かせる新しい視点を提供した。

5) 2024(R6)年度大阪大学図書館職員研修「未来の知識・未来の図書館」

講師：宇陀 則彦 教授（筑波大学）

日時：2024 年 12 月 24 日（火）13:20～17:00

形式：大阪大学総合図書館 6F 図書館ホール+オンライン(Webex)のハイブリッド開催

参加：110 名（うち会場参加 24 名）

内容：図書館職員の成長と方向性・図書館運営の目指すところ等についての基調講演、当館職員による論考、討論会（講師・キダカミ実行委員メンバー・当館職員）、会場参加者との意見交換により、深く「未来の図書館」を考える契機とした。

6) 関連組織の委員会等への参画

① 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）

運営委員会委員長 小陳 左和子（事務部長）

交渉作業部会委員 吉田 弥生（学術情報整備課専門職員）

② オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

研究データ作業部会委員 西森 哲也（学術情報整備課課長補佐）

甲斐 尚人（附属図書館研究開発室 准教授(兼任)）

神崎 隼人（附属図書館研究開発室 特任研究員）

COAR Annual Conference 2025 地域組織委員会

菊谷 智史（箕面図書館課図書職員）

③ 国立大学図書館協会資料委員会

委員長代行 尾上 孝雄（附属図書館長）

委員 小陳 左和子（事務部長）

萩 誠一（学術情報整備課長）

作業部会委員 坂田 絵理子（図書館サービス課図書職員）

大阪教育大学附属図書館の協会ビジョン 2025 に対応した取り組み 2024 年度（2024 年 4 月～2025 年 3 月）

重点領域 1.知の共有:蔵書を超えた<知識や情報>の共有

目標 1-1) 教育研究成果の発信、オープン化と保存

- (1) 機関リポジトリについて、登録コンテンツ数の増加を進め、紀要論文コンテンツ等への DOI 付与を実施するとともに、学内への広報を強化し、取り組みを推進している。また文部科学省の OA 加速化事業により、本学所属教員の研究成果を収集・管理している研究者業績サービスシステムの機能追加を行い、リポジトリ未収載論文の抽出・論文需要の把握を容易にすることで、リポジトリへの成果論文の収載を推進し、アクセス数増加を図っている。
- (2) 大学の教育研究成果の発表誌として、査読制を導入した『大阪教育大学紀要』(Memoirs of Osaka Kyoiku University)を継続的に発行し、教育研究の質向上への貢献と成果のオープンアクセス化・長期保存を図っている。また、紀要投稿手続きをこれまでのメールによる受付から Web フォームによる受付に変更することで、投稿者がチェックすべき事項の見落としを減らすとともに、投稿受付に係る業務の省力化を図っている。

目標 1-2) 図書館資料の整備と利用のための保存

- (1) 蔵書利用状況、電子資料のアクセス状況等の実態を把握し、所要経費について学内措置を進めた上で適切な資料整備につとめ、本学構成員に即した利用環境を整えている。
- (2) Elsevier 社の ScienceDirect, Scopus について、東京学芸大学を窓口 to 複数の教育系大学の契約を取りまとめることにより、JUSTICE 提案を基本とした教育系大学の事情に配慮した特別措置が適用されている。本学もこの契約に継続的に参加している。

目標 1-3) 知識や情報の発見可能性の向上

- (1) 未登録資料の遡及入力を継続的に実施し（2024 年度は 3 月末時点で 2,053 件の遡及済）、国内・海外の教科書コレクションの整備・充実を図っている。
- (2) ディスカバリーサービスとして、EBSCO Discovery Service を活用した検索ツールを提供している。本学に必要な教育学系および日本語文献等に特化した情報が効率的に発見できる環境を構築するとともに、リンクリゾルバ¹による四教育大学（大阪・京都・奈良・兵庫）を対象とした所蔵確認を図書現物取寄せ無料化の実施に役立てている。



¹ 文献データベース等の検索結果から、文献の適切な入手方法・入手経路を案内するシステム

重点領域 2. 知の創出: 新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

目標 2-2) 社会・地域に開かれた知の創出空間の提供

- (1) 柏原本館、天王寺分館とも、資料利用を目的とした学外者の来館を受け入れている。
- (2) 柏原本館では、学外からの来館者（修学旅行・大学見学者等）にツアーを実施している。
- (3) 大学が取り組む事業「大阪府立八尾高等学校生徒への一部授業の公開」を踏まえ、天王寺分館において同高校生に対し、学外者と同一利用条件で資料の館内利用・館外貸出を行っている。
- (4) 大阪市総合教育センターが4月に大阪教育大学天王寺キャンパス内のみらい教育共創館へ移転したことに伴い、センターと附属図書館間で協定を結び、資料の相互利用等の連携を行っている。

重点領域 3. 知の媒介: 知の交流を促す〈人材〉の構築

目標 3-1) 多様な人材との協働

- (1) 柏原本館において大学院生をサポートスタッフ（TA）として配置し、学部学生の学習相談や図書館利用案内などを行っており、レポート作成に関わる講習会等も開催している。
 - ① 学習のお悩み相談会を開催（5月）。
 - ② レポートの書き方講座を開催（7月、11～12月）。
 - ③ 教員を目指す・大学院進学を目指す学生に向けた相談座談会を開催（10月）。
- (2) 柏原本館において、以下のガイダンス・講習会等を実施した。
 - ① サポートスタッフと協働で新入生向けツアーを実施。（4月）
 - ② 教員からの依頼を受け、授業やゼミでのガイダンスを実施。
 - ③ レポート作成応援週間を設定し、教員との協働によるイベントを開催（5月）。
 - ④ まなび応援 Week（文献検索講習会、デジタル教科書・電子黒板体験会、貴重資料見学会等）を開催（11月）。
- (3) 天王寺分館において、以下のガイダンス・講習会等を実施した。
 - ① 大学の新入生ガイダンスにおいて、図書館の案内動画を上映。
 - ② 教員の依頼によるゼミ単位での文献検索講習会を実施。
 - ③ カスタマイズ文献検索講習を実施（11～1月）。
- (4) 天王寺分館閲覧室内で、初等教育教員養成課程幼児教育専攻3回生の学生による企画展示「自然と遊ぶ ～森の中の遊び～」(期間：2024年11月12日(火)～2025年1月31日(金))を実施した。

目標 3-2) 国立大学図書館職員的能力向上

- (1) 全学的に重要なプロジェクト(教育DX推進、IR(Investor Relations)活動、研究データ管理(RDM)等)に図書館職員が積極的に参加し、これまで培ってきた学術資料に関する専門的知識を活かし、新たな知識の習得も図りながら、大学の課題解決に貢献する中で専門的能力の向上を図っている。あわせて、大学の特性にあった図書館機能のあり方も検討し、職員に求める役割の明確化も検討している。

兵庫教育大学附属図書館 令和6年度活動報告 (2025.4.1)

1. 教材文化資料館後期企画展「間の防災ーいまのあいだに考える、あしたのための防災」

展示期間：令和6年10月1日～令和7年2月16日

阪神・淡路大震災から30年の節目に、「防災」をテーマとした企画展を開催。「ひととひと」「ひとと自然」「日常と非日常」など5つの視点から、その間＝バッファー（緩衝帯）で展開しうる「防災」について紹介した。関連イベントとして、ギャラリートークや災害食の試食会も開催。 ※教材文化資料館は、附属図書館のなかにある小さな展示室です。年1～2回の企画展を開催しています



- ①試食イベント「あじわう、まなぶ、災害食」の様子
2025年1月21日(火)12:00～13:00
災害食70食完配
- ②ギャラリートーク「人と自然の間の防災」の様子
2024年11月12日(火)12:25～13:00
参加者：15人
- ③企画展チラシ
- ④展示の様子

令和7年度前期展も
絶賛開催中！



2. 岡山大学附属図書館とのコラボ展示

展示期間：令和 7 年 1 月 6 日～2 月 18 日

本学教材文化資料館において令和 4 年に開催された企画展「びんせんとペンごっこ：手紙で始めるクリエイティブ・ライティング」の展示物をスーツケースに詰め込み、希望する図書館に送る出張展示企画。

「国立大学図書館協会総会広告掲載料収入による事業」（令和 4 年度）として採択された「アクティブ・ライティング・セミナー」の一環として、出張展示の希望館を募集しつつあったところ、令和 6 年に岡山大学附属図書館より希望があり、初めて実現した。単なる移動展示ではなく、岡山大学の企画が存分に加味されたコラボレーション展示となった。



⑤



⑥



⑦

⑤ 展覧会チラシ

⑥ 展示風景

⑦ 封蝋体験のようす

3. 神戸キャンパス図書室リニューアル

令和 7 年 3 月に神戸キャンパスがハーバーランドから神戸市長田区に移転したことに伴い、図書室もリニューアル！



令和6年度 神戸大学附属図書館の特色ある活動報告

I. 研究活動支援

- 「オープンアクセス加速化事業（令和5年度補正予算）」に採択
文部科学省「オープンアクセス加速化事業（令和5年度補正予算
： 人工知能等社会実装研究拠点事業補助金）」に採択された。
これを受けて、下記会議出席のためへ職員2名を米国へ派遣した。
・ 2024 Charleston Conference（11月13日～15日）

また、即時OA義務化の広報活動として、ウェブサイトでの広報に加えてリーフレットやノベルティを作成した。教員にはグリーンスティック（紙マッチ型種）付きのリーフレットを配布したほか、教員控室や共同研究室等にポケットティッシュを設置、新任教員向けにウェットティッシュを作成した。

- 公開セミナー「入門！研究成果公開 ～即時オープンアクセス時代の流儀を学ぶ～」を開催

2月4日にオンラインで公開セミナー「入門！研究成果公開 ～即時オープンアクセス時代の流儀を学ぶ～」を開催し、研究者、研究推進系職員、図書系職員を中心に全国から381名の参加があった。弁護士で神戸大学大学院客員教授の福井健策氏による講演と、学内教員の事例報告が行われた。質疑応答では多くの質問が寄せられ、参加者から高い評価を得た。

- 電子ジャーナルおよびデータベースの購読に関するアンケート

令和8（2026）年度以降の購読タイトルの検討資料として、8月21日から9月30日まで、教職員対象に電子ジャーナルおよびデータベースの購読に関するアンケートを行った。

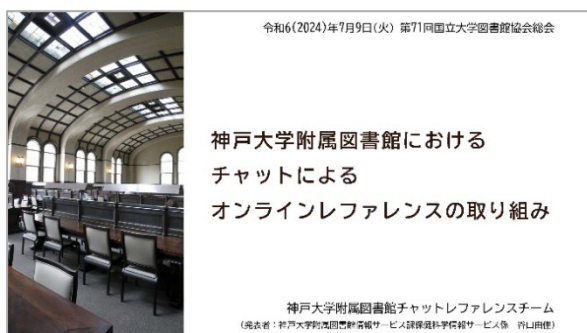
- Elsevier と転換契約を締結

Elsevier との論文のオープンアクセス（OA）出版の促進を目的としたパイロットプロジェクトに参加し、電子ジャーナル購読料とAPCの包括契約を3年間締結した。なお、令和4年度よりSpringer Natureとも同様に転換契約を締結している。

II. 学修サポート

- 「チャットレファレンスの取り組み」が令和6年度国立大学図書館協会賞を受賞

「神戸大学附属図書館におけるチャットによるオンラインレファレンスの取り組み」が令和6年度国立大学図書館協会賞を受賞した。



即時OA広報用リーフレット



公開セミナーポスター

■ 図書館冒険の旅 2024—スカベンジャーハント—

10月15日～11月29日に社会科学系図書館を会場として図書館に関連したクイズイベント「スカベンジャーハント」を開催し、19名から回答の提出があった。さらに、開催期間終了後の12月17日に解説イベントを実施した。



スカベンジャーハント

■ 学生選書ツアー

11月1日にジュンク堂書店三宮店で、学生が図書館の蔵書を選ぶ「学生選書ツアー」を実施し、院生・学生の計17名が参加した。選定された図書は総合・国際文化学図書館に配架された。

■ 読書促進イベント「シェア本棚—自分でつくるプチ図書館—」

12月18日～2月28日に総合・国際文化学図書館で読書促進イベント「シェア本棚—自分でつくるプチ図書館—」を実施した。展示コーナーの本棚を1棚分ずつシェアし、図書館の蔵書を自由に展示できるイベントで、8組が参加した。



シェア本棚

III. 社会連携・情報発信

■ 令和6年度資料展「阪神・淡路大震災30年 あの日の神戸 — 記憶の継承 —」

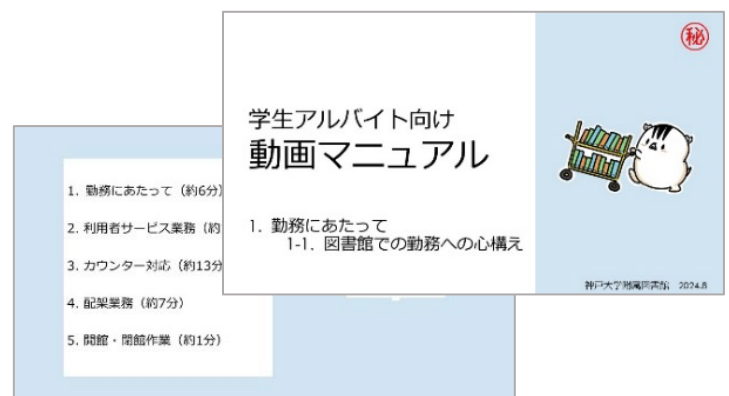
毎年、図書館所蔵資料を利用した展示会を実施している。今年度は、阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えるにあたり、当時の被災状況や街の様子と30年後の復興を遂げた現在の様子を「震災文庫」所蔵資料を中心とした写真や地図などで紹介した。本展示は一般市民の関心を集め、学外からの来館者は1,296名に達した。さらに報道機関からの取材も8件に上り、広く注目される結果となった。



IV. その他

■ アルバイト学生向け業務動画マニュアルの作成

アルバイト学生への業務説明補助資料として、動画マニュアルを作成した。



1. ブック展示

① 教育実習に役立つ本&電子ブック (6/6～6/29)

教育実習に役立つ本と電子ブックを集めた展示を行った。電子ブックは自宅などからもアクセスできるよう、QRコードとURLを記載した葉をあわせて掲示した。



教育実習に役立つ本&電子ブック



学生スタッフおすすめ図書

② 学生スタッフおすすめ図書 (7/4～8/5)

学生スタッフのおすすめ図書を、推薦文のポップとともに展示した。様々な専修の学生が選定したため、バラエティ豊かなラインナップになり、貸出も多かった。

③ SDGs 関連図書 (10/1～10/31)

「SDGs」で掲げられている目標を取り上げ、関連する図書の展示を行っている。今回は「10.人や国の不平等をなくそう」に関連する図書の展示を行った。

④ 学問祭推薦図書 (11/21～12/12)

奈良国立大学機構主催の「奈良カレッジズ学問祭」(8/23～8/29)に登壇した講師の推薦図書を展示した。

2. 大学の特色を踏まえた学習資料の充実化

全国初となる国立の「附属幼保連携型認定こども園」の設置を受け、「乳幼児教育」関連図書について、担当教員の協力を得て重点的に整備した。

3. 展示会の開催

図書館の展示コーナー(ライぶらりギャラリー)において、図書館主催の展示会「正倉院模造復元品展」を実施した(10/21-11/19)。また、授業等とも連動し、広く活用された。

- ・「新理数教育Ⅳ」成果発表「教科書研究展」(3/27-4/15)
- ・「理数教育研究センター」「自然環境教育センター」ポスター展(4/15-5/8)
- ・「のぞいてみよう！せかいのえほん」(4/18-4/30) ※閲覧室入口前で展示

- ・「私たちの研究展一手にとってもらいたい、この1冊」(5/13～6/17)
- ・大学院科目「書道の芸術性と実用性」受講者および学部教養科目「仮名書道と実用書」受講者による「成果発表書作品展」(7/24-8/9)
- ・「レゴブロックで音に合わせたアート作品を作ろう!」:「作曲・編曲法基礎演習 I」での奈良女子大学附属小学校5年生によるアート作品展示(8/26-9/25)
- ・後期授業科目「数学教育論」受講者による成果発表「Enjoy Math Art 展」(1/21-2/7)
- ・「のぞいてみよう!せかいのえほん」(1/20-2/7) ※閲覧室入口前で展示
- ・後期授業科目「子どもと環境」受講者による成果発表「かずかたち絵本展」(1/31-2/14) ※えほんのひろばで実施
- ・大学院授業科目「仮名書法演習」受講者および大学院修士課程修了者による「成果発表作品展」「修士課程修了制作展」(3/3-3/11)

Enjoy Math Art 展



4. オンライン学生選書ウィーク(旧「ブックハンティング」)の実施

例年実施している学生による選書企画として、「オンライン学生選書ウィーク」を開催した。10/10～10/24を選書期間とし、書店ウェブサイトを使用して実施し、10名が選定した図書約80冊を購入した。購入図書は、学生が作成したポップとともに展示し、多数の貸出があった。



5. 投票による教職員・学生参加型選書の実施

奈良教育大学および奈良女子大学の教職員・学生を対象に、図書館の職員がピックアップした本の中から「奈良教育大学図書館に置いてほしい!」と思う本にオンライン又は館内投票所で投票してもらった企画を実施した。分野等のバランスを考慮して計113冊を購入した。

開催期間		オンライン	館内投票所	合計得票数	購入冊数
第1弾	6/20-7/3	416票	166票	582票	40冊
第2弾	11/27-12/10	538票	209票	747票	73冊

6. 学術論文等の即時オープンアクセス義務化にかかる広報を実施

学術論文等の即時オープンアクセス義務化および機関リポジトリへの研究成果登録に関する案内ウェブページを作成するとともに、広報用リーフレットを作成し、全専任教員を対象に説明を行った。



奈良女子大学 令和6年度特色ある取り組み

I. 図書館運営

奈良国立大学機構として奈良教育大学との連携を図り、令和7年4月から運用予定の図書館システムの共同調達を行いました。

II. 企画展示

学術情報センター（附属図書館）2F 展示コーナーでは、年間テーマ「触覚再現技術によるペインの解決」として触覚再現技術を用いた装置と関連図書を展示しました。

また、年間テーマに関連した展示等を随時行いました。

12～1月には、「帯から広がる！新しい世界」として、装束の段階ではずしてしまう本の帯を展示しました。



III. サービス企画

学生選書(シール投票) 10月～11月

職員が作成した選書リストにシール貼付またはwebフォームにより投票してもらい、得票上位の約110冊を購入しました。奈良教育大学との相互利用促進を期して奈良教育大学図書館にも投票所を設けました。

IV. 「電子画像集」(貴重資料画像集)更新

奈良女子大学では所蔵者や奈良国立博物館の協力を得て、主に奈良県内の寺社・関係機関が所蔵する資料の電子化事業「奈良地域関連資料データベース」を継続して実施しています。

令和6年度は、朝護孫子寺所蔵資料の3点を公開しました。

1. 「毘沙門天王立像（将軍自在毘沙門天王）」 2. 「歛算上人像」 3. 「命蓮上人像」

また、阪本龍門文庫所蔵電子画像集に3点を追加しました。

1. 「註妙法蓮華經卷第四」 2. 「諸道聴耳世間猿」 3. 「日本繁昌寶永千歳記」

2024（令和6）年度 和歌山大学図書館 活動報告

令和7年4月

1. 機関リポジトリ・システムの更新（2025年2月）

JAIRO Cloud (WEKO 3)導入

2. 2024年度 和歌山地域図書館協議会フォーラム開催

10/5（土）「近代密教学の誕生－柊尾祥雲と吉井芳純－」

（今年度の開催担当：高野山大学）

場所：和歌山県立図書館 講義・研修室（24名参加）



3. オンライン講習会

- ・ 6/4（火）Web of Science オンライン講習会（22名参加）
- ・ 6/7（金）就活に役立つ！日経テレコン講習会@ZOOM 一日経テレコンで始める業界・企業研究ー（4名参加）

2. 読書会の実施

『リトルネロ』（学内教員が編集する書評誌）編集委員会と図書館による主催

- ・ 7/5（金）『同志少女よ、敵を撃て』『独ソ戦：絶滅戦争の惨禍』（9名参加）
- ・ 12/20（金）『ヒルビリー・エレジー』

※対面とオンラインによるハイブリッド開催

5. 図書展示

- ・ 院生 LA（ラーニング・アドバイザー）による選定および展示
- ・ 職員によるテーマ選定および展示
- 「大学生生活取扱説明書」「もっと知ろう！わかやま」「私たちが働くということ」
- ・ 他に災害ボランティアステーション「むすばら」メンバーお薦めの防災・災害関連本を展示



6. 院生 LA ミニ講習会 2024 の開催

- ・ 2/4（火）「ゼロからはじめる卒業論文ワークショップ」（10名参加）
- ・ 2/6（木）「私は本当に勇敢な冒険者？学部時代に直面したリスクと勇気」（7名参加）
- ・ 2/20（木）「公共交通としての自動運転～自動運転バスから見えるもの～」（7名参加）

令和 6 年度 奈良先端科学技術大学院大学附属図書館 特色ある活動の報告

1. 機関リポジトリ登録管理システムの導入

本学では研究業績管理システムからリポジトリへの登録申し込みを行っている。オープンアクセス加速化事業の助成を受け、研究業績管理システムの入力データを自動で取得し、メタデータや権利情報の管理、JAIRO Cloud への一括登録データを出力する機関リポジトリ登録管理システムを構築した。

2. 図書館セキュリティゲート管理システムの導入

オープンアクセス加速化事業の助成を受け、図書館セキュリティゲートシステムを更新した。本学では24時間開館を行っているため定期的な不正帯出ログの管理が必要であり、これまでログを抽出し、図書館システムのデータと照合していたが、管理システムによりタイトルや請求記号等のリストを簡便に出力できるようになった。またゲートで不正帯出とみなされた資料のタイトルをリアルタイムで表示できるようになり、利用者への確認作業がスムーズになった。

3. 蔵書点検の簡便化および書庫資料・開架資料の調整

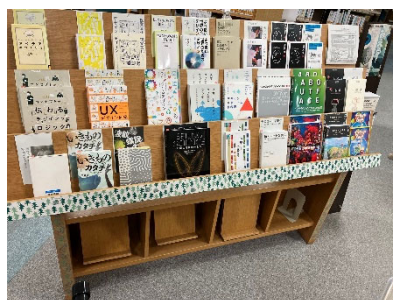
オープンアクセス加速化事業の助成を受け、書庫資料にRFIDを貼付し、蔵書点検及び貸出の簡便化を図った。また雑誌の整理と書庫資料・閉架資料の調整を実施し、書庫は雑誌を中心に配架し、開架図書が増加したことで利用者が24時間利用できる資料が増加し、職員による出納・貸出返却作業が減少した。

4. 知の森コーナー

学内から募集したテーマや図書館職員が設定したテーマに沿った資料を選び、「知の森コーナー」として展示している。令和 6 年度の知の森コーナーのテーマは以下のとおり。

令和 6 年度知の森コーナー展示企画一覧

実施回	実施時期	テーマ
第 40 回	2024 年 3 月-2024 年 7 月	家でできるかな？
第 41 回	2024 年 7 月-2025 年 1 月	科学とかたり
第 42 回	2025 年 1 月-2025 年 3 月	みえる！みえる？
第 43 回	2025 年 3 月-	〇〇100 年

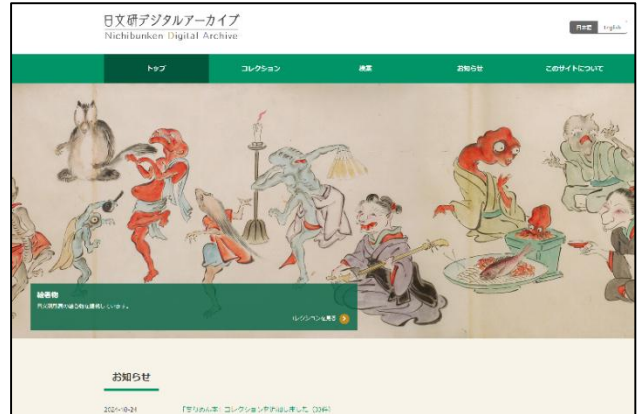


2024 年度 国際日本文化研究センター図書館 活動報告

1. 日文研デジタルアーカイブの公開

2024 年 3 月、貴重資料を始めとした日文研所蔵資料の電子化及び公開を促進するため、「日文研デジタルアーカイブ」を公開した。IIIF に対応し、高精細画像をスムーズに閲覧することができる。第一弾として、吉田初三郎式鳥瞰図、絵巻物、風俗図会の各データベースのコンテンツ約 1,500 件を公開しているが、今後も既存 DB の置換や所蔵貴重資料の公開を促進していく予定である。

(<https://da.nichibun.ac.jp/>)



2. アーサー・ハット・シノット氏の書簡コレクション受入

2024 年 5 月 13 日、所蔵者より同コレクションの寄贈を受けた。同コレクションは、英軍人アーサー・ハット・シノットが 1904 年～1939 年の間に日本語（変体仮名）で日本人女性 鈴木まさ 宛に書いた手紙（恋文）約 1,000 通のコレクション。個人の手紙であるが、当時の日英の社会制度や情勢、価値観などを検証する資料とも言える。今後の研究が期待される。



3. ラップナウ・コレクションの寄贈受入決定

米国のドナルド・ラップナウ氏が、長年にわたって収集してきた日本関連の絵葉書、風刺画、古写真、宣伝ビラ、チラシ・ポスターなど約 8 万点のコレクションの日文研への寄贈が決まった。近代日本や東アジアの大衆文化を研究する上できわめて貴重な資料群である。今後、受入・整理を進め、研究および公開を促進して行く予定である。



4. EAJRS（日本資料専門家欧州協会）年次集会 2024 への参加

2024 年 9 月 11 日～14 日の日程で、ブルガリアの首都ソフィアにおいて開催された「第 34 回日本資料専門家欧州協会（EAJRS）年次集会」に、日文研図書館から、関野情報管理施設長、福田係長、江上係長が参加し、会場内でのブース出展を実施するとともに、他機関のブース見学やワークショップにも積極的に参加し、欧州の図書館司書・日本研究者らとの交流を深めた。また、本センターの山田教授が「日文研デジタルアーカイブの公開と AI 技術による DB の高度利用」と題する発表を行った。



5. CEAL（東アジア図書館協会）・NCC（北米日本研究資料調整協議会）・AAS（アジア学会）2024

2025 年 3 月 11 日～14 日の日程で、アメリカ・オハイオ州コロンバスにおいて開催された CEAL（東アジア図書館協会）・NCC（北米日本研究資料調整協議会）・AAS（アジア学会）の 2024 年次集会に、日文研図書館から、江上係長が参加し、北米地域の日本資料専門家との交流を深めた。また、本センターの山田教授が、日文研図書館所蔵の日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム寄贈脚本資料についての受入経緯や資料的価値についての発表を行い、大きな関心を集めた。

6. 同志社大学図書館司書課程「図書館実習」の実習生受入れ

2024 年 8 月 27 日～8 月 30 日にかけて、同志社大学図書館司書課程の「図書館実習」に協力し、実習生 1 名を受入れ、各図書館業務の実習を実施した。この実習生の受入れは、2012 年度から毎年実施しているもので、2020～2022 年の間、コロナ禍のため一時中断していたが、昨年度から実習生受入を再開した。

7. 日文研一般公開での図書館所蔵資料の展示

2024 年 11 月 2 日（土）開催された「日文研一般公開：国際日本研究がひらく世界」における講演会「海外ドラマ『SHOGUN 将軍』から戦国日本イメージを考え直す」の会場ロビーに関連する貴重書を展示した。また、当館所蔵貴重資料の図版等をつかったオリジナルカレンダーを作成・配布し好評を博した。



(2025. 4. 23 国際日本文化研究センター図書館)

2024（R6）年度 国立民族学博物館図書室活動報告

1. サービス

- ・入館者数は 6,304 名、うち一般利用者は 1,408 名（令和 7 年 3 月末現在）。
- ・大学教育における図書室活用の促進のため、「展示場の授業など利用について」の申請書に「図書室」の項目を追加し、図書室利用が可能であることを周知した。また、申請時に、図書室見学や利用について事前にメールで案内を行ったことにより、大学教育での見学、利用が昨年度より増加した。
- ・館内者は図書室利用証がなく、貸出時には利用者名を検索して貸出を行う運用としていたが、利便性や間違いの防止等のため、職員証にバーコードシールを貼付することで、館内者もバーコードにて貸出を行う運用を開始した。

2. 所蔵資料の特別利用（画像提供など）

- ・所蔵資料の特別利用（画像提供など）は、10 件あった（うち、民族学アーカイブズ資料は 8 件）。内訳の件数は以下のとおり。
【利用者別】館内者 2 件／館外者 7 件（うち大学など研究機関所属者 3 件）
【目的別】研究利用 5 件／出版物・メディア掲載 5 件
- ・台湾の公共テレビ「芸術很有事」（12 月 21 日放送）で放送された「岳人の愛情絮語－劉克襄致鹿野忠雄」にて、鹿野忠夫アーカイブ資料の写真等が使用された。寄贈された番組の DVD（日本語字幕あり）は図書室に所蔵している。

3. 民族学アーカイブズ資料の利用

- ・以下の民族学アーカイブズ資料について利用および複写申請があり、対応を行った。
件数：12 件（うち 6 件が館外者）
アーカイブ名：鹿野（2 件）、青木（2 件）、北村、馬淵、杉浦、泉（2 件）、石毛、小林保祥資料、日本文化の地域類型研究会

4. 事業利用

- ・国立民族学博物館での展示のために図書室の文献図書資料の提供を行った。

本館展示		中国地域の文化展示	11 冊（4 月）
			12 冊（10 月）

特別展示	9/19～12/10	吟遊詩人の世界	3 冊
企画展示	9/5～12/3	客家と日本：華僑華人がつむぐ、 もうひとつの東アジア関係史	13 冊
企画展示	3/13～6/17	点と線の美学：アラビア書道の 軌跡	3 冊、アラビア語等 の新聞 7 誌

- ・『民博通信 Online』（11 号）、『月刊みんぱく』（2025 年 2 月号）にて所蔵資料の画像提供を、「第 553 回みんぱくゼミナール」にて所蔵資料の提供を行った。

5. 図書室見学・案内

- ・新任職員や外来研究員のオリエンテーション、総研大新入生ガイダンス、若手研究者奨励セミナー、JAICA 受託研修ガイダンスにて、所属教職員等へ図書室の見学案内や利用説明を行った。
- ・以下の大学等からの求めに応じて、来館者へ図書室見学の見学案内や利用説明を行った。（国際ファッション専門職大学、龍谷大学、摂南大学、甲南大学、立命館大学、東京都立大学、京都精華大学、関西大学、関西学院大学）

6. 職場体験活動の受入

- ・令和 6 年 11 月 13 日に箕面市立第四中学校から 3 名の中学生の職場体験を受け入れ、カウンター業務、目録業務、雑誌受入、リポジトリ登録などの体験指導を行った。

7. オープンアクセス

7.1. オープンアクセス加速化事業

人間文化研究機構の申請の一部として申請。内容は次のとおり。

- ・ オンライン出版支援としてフルオンラインの国際ジャーナル刊行のための編集システムの設計と人的補助の試行を行った。
- ・ 機構本部でデータリポジトリ構築のための調査を行い、民博においては試行としてデータセット（教員撮影の写真デジタル化）を作成した。
- ・ 予定していた APC 支援は実施なし。

7.2. オープンアクセス加速化事業

学認対応 IdP ホスティングサービス実証実験への参加

IDaaS は SeciossLink を使用。次のことを実施（予定）。

- ・ 館外から電子ジャーナル等サービスの利用
- ・ NII FileSender の利用
- ・ GakuNin RDM の利用試行

7.3. OA 方針等

- ・ 人間文化研究機構研究データマネジメントポリシーを制定（4/8）。
- ・ 民博の実施手続き規程およびオープンアクセスポリシーを館内策定。
- ・ 総研大附属図書館オープンアクセス推進部会に参加。

7.4. 即時 OA 対応準備

- ・ 民博の教員向け科研費説明会において頭出しとして政策の説明を行った。

以上